

日本アスファルト合材協会
の協力の
第1四半期製造量
日合協の
第1四半期製造量

過去最低700万ト割れ

減少に歯止め掛からず

日本アスファルト合材協会（会長 今泉保彦）が会員企業は、前年同期比2・1%減の694万4637トとなり、過去最低だった前年同期実績（709万7210ト）を下回った。単月を

スでさかのぼると2月以降、5カ月連続の前年割れとなっている。合材の需要そのものが長らく低迷し続ける中、材料やエネルギーコストなどの上昇に伴う単価アップも加わり、物量が出ない。

地震の復旧工事がある北陸は増加が顕著で、北海道、中部、沖縄は微増。最大市場の関東を含むこのほかの6ブロックはマイナスで、東北と九州は5期連続、四国は4期連続の前年同期割れという厳しい状況にある。

県別を見ると、東北や九州などで大幅な減少が目立つ。青森、宮城、山形、群馬、大阪、和歌山、島根、徳島、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島は2桁の減少となっている。工場稼働率の全国平均は、前年同期より0・2%下降して27・1%となり、こちらも過去最低を更新した。ブロック別で全国平均を超えたのは、関東（36・4%）、北陸（34・6%）、中部（29・9%）の3地区。北海道、東北、近畿、中国、九州は20%台で、四国と沖縄に至っては10%台にとどまっている。

25年度第1四半期の製造数量の内訳は、主に高規格の道路に使われる新規合材が0・8%減の178万5978ト、一般道の新設や補修などに多用される再生合材が2・5%減の515万8658トで、両方とも減少した。

ブロック別では、能登半島

